

天然素材を研究・開発し世界へ届ける プロテオグリカンのパイオニア目指す



▲本社・真正工場

1959年に設立し、天然素材に特化した研究を行い健康食品原料、医薬部外品原料、化粧品原料などを開発し、生産・販売をしている。経営理念は「天然資源との共生を通じて世界の人びとの美と健康に貢献すること、人間尊重と自然環境保全を基盤とした独自の研究開発・技術革新・高品質の探求、健全経営を継続することによりお取引先様・社員の幸福を実現する」を掲げる。

製品の開発は、肌理論の追求・市場のトレンド分析からはじまり原料調査、有効性・安全性・安定性などの各種試験、薬事調査や特許調査まで一貫して行い、天然資源に含まれる有効成分の同定や規格化、海外各国におけるレギュレーション対応までをワンストップ体制で整えている。

健康食品分野で主力の「プロテオグリカンF」は、サケの鼻軟骨由来の成分で、「関節軟骨の保護」

「軟骨成分の分解を抑える」「膝関節の可動性をサポート」「肌弾力を維持」をはじめ、「日常生活における膝の動き（階段の上り下り、歩く、立ち上がる、落ちたものを拾う、座っている）の改善に役立ち、起床時の膝の違和感を軽減する」など、より具体的な機能性表示の届出も受理されている。

健康食品原料では21年から、営業・開発に専任の社員を置き、チームを結成することで強化を進めている。今後も、しっかりとしたエビデンスをもとに、既存原料の研究や、新素材の開発などを進め、ラインアップを充実させていきたい考え。

また、社内ではSDGs委員会を立ち上げ、明確な数値目標のもとに取り組みを進めている。ニームの葉などから製造した健康食品原料の販売量1kgあたり100円を植樹や原料の供給元のインドなどのサポートに役立てる活動を、2030年まで継続して行っていく。

さらに、5年前からWEB面談やオンラインセミナーを積極的に取り入れており、コロナ禍での在宅ワークも早期に対応した。Webプロダクトガイドを導入することで、オンライン上でサンプルや資料の請求など、欲しい情報が取り出せる環境を整えている。

海外に向けて、主力の「プロテオグリカンF」など92製品で日本アジアハラル協会のハラル認証を取得。「プロテオグリカンF」は、コーシャ認証も取得。プロテオグリカンのパイオニアとして、海外での地位確立も目指している。



▲安藤亮裕取締役経営企画室長